

II.調査結果の要約

1. 粒度分布は粒径0.5mm未満が増加傾向、粒径4.0mm以上が減少傾向を示した(図1)。「II 底質」で述べたとおり、前回以前と今回では調査方法が異なることから、単純に比較できないが、沿岸帯の底質が次第に細粒化している可能性はある。1969年および1995年の調査では0.5mm未満は分類されていないが、今回の調査では分類した(図2)。また、「II 底質」に示した分類法による底質は、砂地(S)が36.0%と最も多く、次いで泥地(M)が28.9%、砂泥地(SM)が17.2%、砂礫(GS)が15.0%の順となった(図3)。

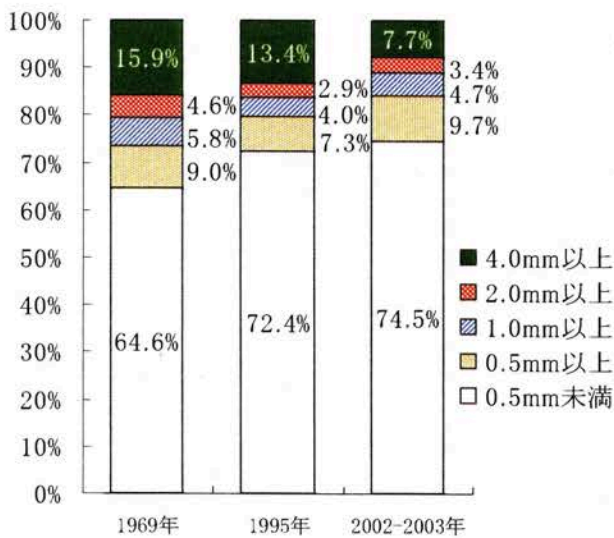


図1 粒度分布の変化

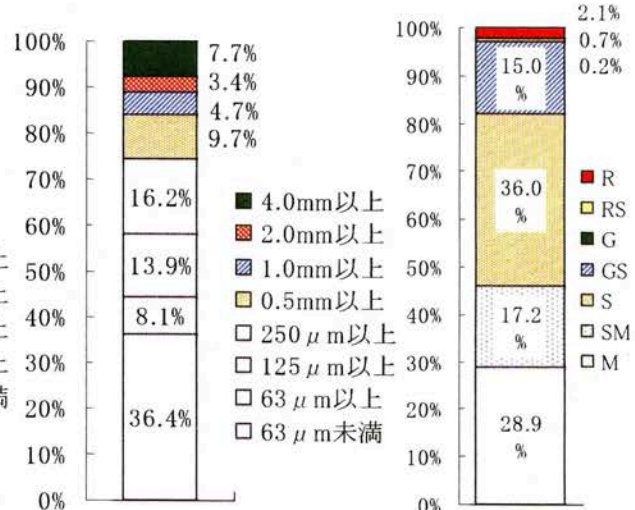


図2 2003年の粒度分布

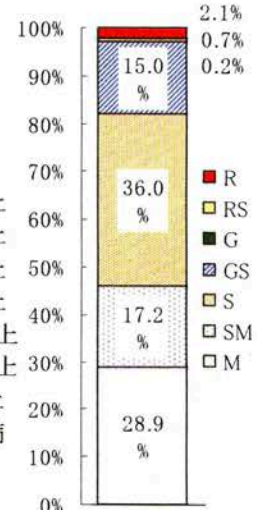


図3 底質分布

2. 沈水植物はセンニンモ、クロモ、オオカナダモ、マツモが量的に優位を占めた。沈水植物にヒシを加えた全体の推定現存量は湿重量として84,500トンで、1995年の75,200トンよりもやや増加した。地区別に見ると、湖南部での増加が著しく、1995年に比べて3~5m深度における植被面積および現存量が大幅に増加した。1969年、1995年に優占種であったコカナダモは1995年の4分の1以下に減少し、代わってヒロハノエビモ、オオササエビモ、クロモ、オ

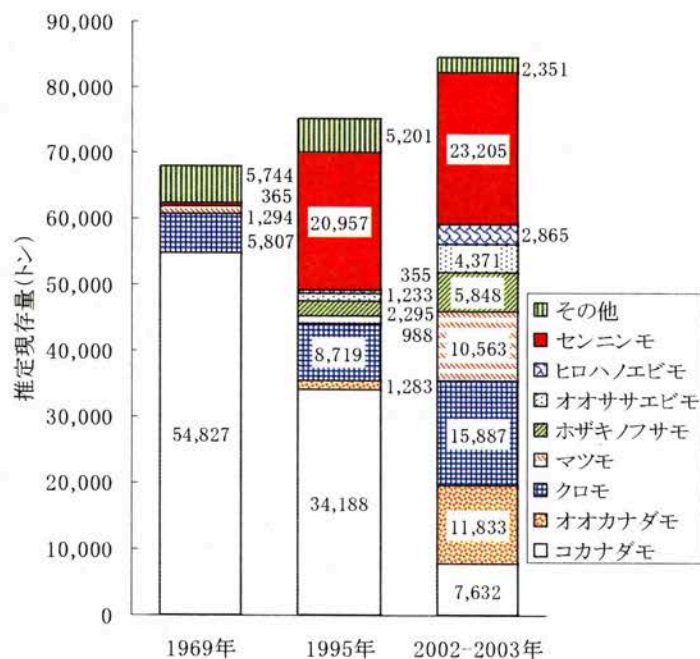


図4 沈水植物推定現存量の変化

オカナダモ、マツモ、ホザキノフサモ等が増加し、優占種が多様化した。センニンモは1995年と同程度の現存量であった。

- 貝類の推定現存量は8,869トンで、1995年の10,930トン、1969年の10,846トンの約80%に減少した。1995年と比較すると、タニシ類とカワニナ類などの巻貝類はほぼ同程度であったが、タテボシガイとシジミ類などの二枚貝類は減少した。特にシジミ類の減少は著しい。
- 貝類以外の底生生物の推定現存量は305トンで、1995年の78トンより大幅に増加したが、1969年の298トンとほぼ同程度となった。1995年の現存量の低下は1994年の大湯水の影響ではないかと考えられている。種類別にはミズ類が全体の87%を占めた。1969年と比較すると、ユスリカ類が42%に減少、その他の昆虫類が27%に減少、甲殻類が18%に減少、ヒル類が1.9倍に増加、ミズ類が1.3倍に増加した。

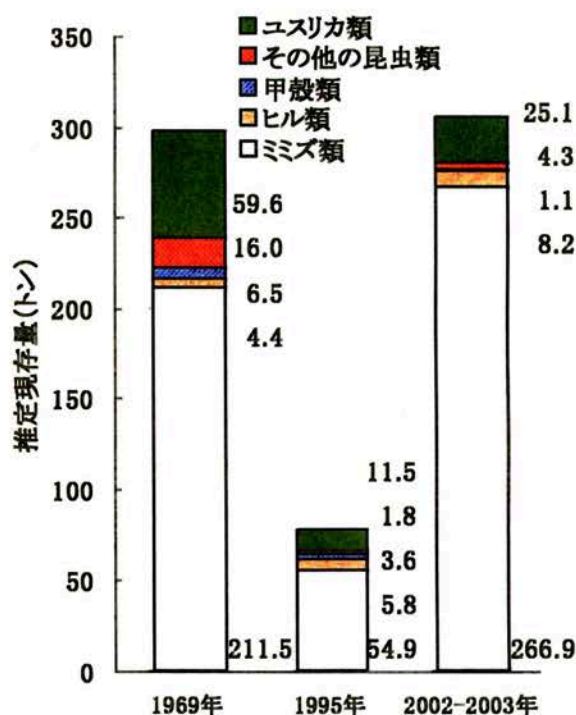
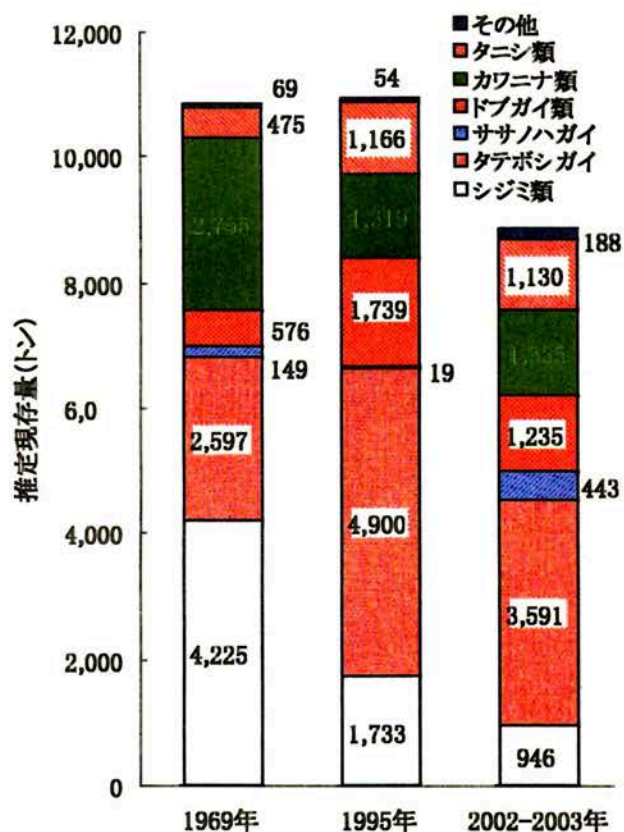


図5 貝類推定現存量の変化

図6 貝類以外の底生生物推定現存量の変化